

令和 8 年度
大学院連合教職実践研究科
教科研究開発高度化系
入学者選抜 7 月選抜

教科学習探究コース
言語・文化プログラム
学力検査問題

専門科目：プログラム別問題
(教科：国語)

注 意 事 項

1. 問題冊子は監督者の指示があるまで開かないこと。
2. 問題冊子の科目名及び教科名と受験票に記載してある科目名及び教科名が一致しているか確認すること。
3. 問題冊子は表紙を除いて 2 ページ、下書用紙は 1 ページ、解答用紙は 3 ページとなっている。
4. 問題冊子等の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
5. 試験開始後、全ての解答用紙に必ず受験番号を記入すること。
6. 試験終了後、解答用紙は提出し、問題冊子は持ち帰ること。
7. その他については、監督者の指示に従うこと。

プログラム名	言語・文化プログラム
科目名 (教科名)	専門科目 プログラム別問題 (国語)

令和 8 年 度
大学院連合教職実践研究科
教科研究開発高度化系
入学者選抜 7 月選抜
試 験 問 題

(2 枚の 1)

1 次の項目から 1 つを選んで、説明しなさい。解答用紙に選んだ項目の記号を記すこと。

- a. 読書指導 b. 樋口一葉
c. 紀貫之 d. 『唐詩選』
e. 生活言語能力と学習言語能力

2 次の資料は、平成 29・30 年告示学習指導要領解説国語編に記載された各学年の内容の系統表のうち、〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」に関する事項の表である。以下の条件に従って、国語科で行う「話すこと・聞くこと」の授業計画を書きなさい。

①指導事項を 1 つ選び示すこと。例：中学校第 1 学年ア、高等学校「現代の国語」イなど

②単元計画を立てること。

③単元計画案の中のいずれかの 1 時間を本時案として学習指導案を書くこと。

「小学校」

	(小) 第 1 学年及び第 2 学年	(小) 第 3 学年及び第 4 学年	(小) 第 5 学年及び第 6 学年
	(1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
話すこと	話題の設定 情報の収集 内容の検討	ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。
	構成の検討 考えの形成	イ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。	イ 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。
	表現 共有	ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。	ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。
	聞くこと	エ 話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。	エ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。
話すこと・聞くこと	話題の設定 情報の収集 内容の検討	【再掲】 ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	【再掲】 ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。
	話し合いの進め方の検討 考えの形成 共有	オ 互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。	オ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。
	話し合いの進め方の検討 考えの形成 共有	【再掲】 ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。	【再掲】 ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。
	話し合いの進め方の検討 考えの形成 共有	オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。	オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。

プログラム名	言語・文化プログラム
--------	------------

科目名 (教科名)	専門科目 プログラム別問題 (国語)
--------------	--------------------------

(2 枚の 2)

令和 8 年 度
大学院連合教職実践研究科
教科研究開発高度化系
入学者選抜 7 月選抜
試 験 問 題

「中学校」

「高等学校」

(中) 第 1 学年	(中) 第 2 学年	(中) 第 3 学年
(1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。	ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。	ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。
イ 自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えること。	イ 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。	イ 自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫すること。
ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。	ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。	ウ 場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。
【再掲】 ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。	【再掲】 ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。	【再掲】 ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。
エ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること。	エ 論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。	エ 話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりすること。
【再掲】 ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。	【再掲】 ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。	【再掲】 ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。
オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。	オ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。	オ 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること。

(高) 現代の国語		
話すこと	話題の設定	ア 目的や場面に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。
	情報の収集	
	内容の検討	
	構成の検討	イ 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。
	考えの形成	
聞くこと	表現	ウ 話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。
	共有	
	話題の設定	【再掲】 ア 目的や場面に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。
	情報の収集	
	構造と内容の把握	エ 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。
話し合うこと	精査・解釈	
	考えの形成	
	共有	
	話題の設定	【再掲】 ア 目的や場面に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。
	情報の収集	
話し合うこと	内容の検討	
	話し合いの進め方の検討	オ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。
	考えの形成	
	共有	

引用元：文部科学省、『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説国語編』，平成 29 年 7 月，pp. 202-203. (URL: https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf)，最終閲覧日 2025 年 6 月 30 日。

文部科学省、『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説国語編』，平成 30 年 7 月，p. 330. (URL: https://www.mext.go.jp/content/20210909-mxt_kyoiku01-100002620_02.pdf)，最終閲覧日 2025 年 6 月 30 日。

令和 8 年度
大学院連合教職実践研究科
教科研究開発高度化系
入学者選抜 7 月選抜

教科学習探究コース
言語・文化プログラム
学力検査問題

専門科目：プログラム別問題
(教科：英語)

注 意 事 項

1. 問題冊子は監督者の指示があるまで開かないこと。
2. 問題冊子の科目名及び教科名と受験票に記載してある科目名及び教科名が一致しているか確認すること。
3. 問題冊子は表紙を除いて 1 ページ、解答用紙は 2 ページとなっている。
4. 問題冊子等の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
5. 試験開始後、全ての解答用紙に必ず受験番号を記入すること。
6. 試験終了後、解答用紙は提出し、問題冊子は持ち帰ること。
7. その他については、監督者の指示に従うこと。

プログラム名	言語・文化プログラム
--------	------------

令和 8 年 度
大学院連合教職実践研究科
教科研究開発高度化系
入学者選抜 7 月選抜
試 験 問 題

科目名 (教科名)	専 門 科 目 プログラム別問題 (英語)
--------------	-----------------------------

(1 枚の 1)

- [1] 次の英文をよく読んで、あとの問いに日本語で答えなさい。

Today's societies place challenging demands on individuals, who are confronted with complexity in many parts of their lives. What do these demands imply for key competencies that individuals need to acquire? Defining such competencies can improve assessments of how well prepared young people and adults are for life's challenges, as well as identify overarching goals for education systems and lifelong learning.

A competency is more than just knowledge and skills. It involves the ability to meet complex demands, by drawing on and mobilising psychosocial resources (including skills and attitudes) in a particular context. For example, the ability to communicate effectively is a competency that may draw on an individual's knowledge of language, practical IT skills and attitudes towards those with whom he or she is communicating.

Individuals need a wide range of competencies in order to face the complex challenges of today's world, but it would be of limited practical value to produce very long lists of everything that they may need to be able to do in various contexts at some point in their lives. Through the DeSeCo Project, the OECD has collaborated with a wide range of scholars, experts and institutions to identify a small set of key competencies, rooted in a theoretical understanding of how such competencies are defined. Each key competency must:

- contribute to valued outcomes for societies and individuals;
- help individuals meet important demands in a wide variety of contexts; and
- be important not just for specialists but for all individuals.

The DeSeCo Project's conceptual framework for key competencies classifies such competencies in three broad categories. First, individuals need to be able to use a wide range of tools for interacting effectively with the environment: both physical ones such as information technology and socio-cultural ones such as the use of language. They need to understand such tools well enough to adapt them for their own purposes – to use tools interactively. Second, in an increasingly interdependent world, individuals need to be able to engage with others, and since they will encounter people from a range of backgrounds, it is important that they are able to interact in heterogeneous groups. Third, individuals need to be able to take responsibility for managing their own lives, situate their lives in the broader social context, and act autonomously.

[Source] OECD. (2005). *The Definition and Selection of Key Competencies*.

- 問1 コンピテンシーとは何か。本文に即して説明しなさい。
- 問2 コンピテンシーを定義することがなぜ必要なのか、本文に即して説明しなさい。
- 問3 キー・コンピテンシーの3つの特色を本文に即して説明しなさい。
- 問4 DeSeCo プロジェクトはキー・コンピテンシーを3範疇に分ける。それぞれを説明しなさい。
- 問5 日本の英語教育にキー・コンピテンシーをどのように位置づけることができるか、あなたの考えを述べなさい。

- [2] 英語学習における音読の意義について、あなたの考えを述べなさい。次に「主体的対話的で深い学び」の中に音読をどのように位置づけるのか、あなたの考えを具体的に述べなさい。